

第4回京丹後市教育振興計画策定委員会会議録

日時：令和6年12月24日（火）13時30分～14時30分

場所：京丹後市役所大宮庁舎 4階 第2・3会議室

出席者 和田省委員長、赤松副委員長、中川顧問、林顧問、櫛田委員、
坪倉委員、板倉委員、中村委員、藤井委員、後川委員、味田委員、
和田直委員、小谷委員、藤田委員、野村委員、石田委員、藤原委員（敬称略）

欠席者 竺沙顧問、奥田委員、岡田委員（敬称略）

オブザーバー 丹後教育局 永井博之

事務局 松本教育長、川村教育次長、久保理事兼総括指導主事、
上羽理事兼学校教育課長、松本生涯学習課長、
下戸スポーツ推進室長、村田文化財保存活用課長
西村教育総務課長、松下教育総務課主任、西垣教育総務課主事

議 事

1. 開会あいさつ
2. 第3回策定委員会を受けて 資料1
3. 次期計画の素案について 資料2
(意見交換)
4. その他
5. 閉会あいさつ

【議事】

1. 開会あいさつ

〈教育総務課長〉

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日の会議の司会進行をさせていただきます。教育委員会事務局教育総務課長の西村と申します。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、ただいまから第4回京丹後市教育振興計画策定委員会を開会させていただきます。

初めに委員長よりご挨拶を申し上げます。

〈委員長〉

皆さんこんにちは。師走になって参りまして大変お忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございます。また、寒い中足元が悪くて大変だったと思いますけども、どうかよろしくお願ひしたいと思います。

前回は11月の21日に素案的なものを事務局からご提示いただいて、それについて意見を様々論じ合っていました。その中でいくつかの課題を事務局で整理をしていただ

きまして、本日は、そのことを基にしつつ、成案的なものになっているのではないかなと思っておりますので、課題としてどういうふうに事務局で検討されたかというようなところの経過等についても報告をしていただきながら、素案を提示していただけるというふうに思っております。とりわけその部分についてどのような経過をたどって、どういう表現になってきたのか等々についても、皆さんとともに共有して、終わっていきいたいなというように思っております。

特にプロジェクト1から6までの人材育成をど真ん中に置いてどういうふうに迫っていくのかというようなところが基本になろうかと思えますけれども、振興計画が性格上理念的なものだろうというふうに思いますので、なかなか具体的に踏み込めないようなことところも多々あるかと思いますので、本日の中で理念を十分さらに深め共有していただいて、今後は各現場で、或いは各機関組織で具現化を図るための計画等をつくっていただくという、そういうつながりになっていく、てっぺんになるものであろうというふうに思います。

というようなことで、本日、過去2回の議論を踏まえて確認できたらありがたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

本日はお世話になりますよろしくお願いします。

＜教育総務課長＞

ありがとうございます。次に、教育長よりご挨拶いただきたいと思います。

＜教育長＞

皆さんこんにちは。

今会長からもありましたように足元の悪い中を、本当に年末ご出席いただきましてありがとうございます。学校現場におきましては今日終業式というところで、2学期の終了というような中でのご出席ということで、大変ありがとうございます。

2学期におきましては、学校教育の中では本当に様々なところで、今振興計画のほうで検討いただいているような先進的な学びであったり、子どもたちが主体的に学ぶという姿を、授業の中でどう実現していくかということで様々な、研究等が進められて授業の公開もされてきた中で、確実にそうした部分が進歩してきたということで、成果がしっかりと見えた2学期になったのではないかなというふうに思っています。

コロナは落ち着いたのですが、インフルも非常に流行しておりまして、今日、小中学校で168名が休んでおります。そのうち大半はインフルエンザ、発熱でその疑いの子どもたちなんですが、コロナも1人2人とか、さらには、この後課題としても検討いただきますけれども、不登校等で出席できない子も小中20名を超しているという状況ともなっております。

そうした様々な教育をめぐる環境の中で、いかに京丹後市が、理念のもとにしっかりとした教育をしていくかというところの基本となるのがこの教育振興計画の、次の5年間ではないかなというふうに思っています。

本日は、おおよその画像も入れた案を示させていただいておりますので、率直なご意見

をいただきながらさらによりよいものにしていって、子どもたちの学びにつなげていきたいというふうに思いますので、短い時間ですけれども委員の皆様におかれましては、どうぞよろしくお願いいたします。

〈教育総務課長〉

ありがとうございました。それでは議事を進める前に資料2の構成した資料を席上に配付させていただいておりますので、ご覧いただければと思います。

それでは、今後の進行につきましては、委員会設置要綱第6条により、委員長が議長となるとなっておりますので、委員長にお世話になりたいと思います。

それではどうぞよろしくお願いいたします。

〈委員長〉

それでは議事進行がスムーズにいきますように、よろしくお願いいたします。

では、次第によりまして議事を進めさせていただきます。

初めに、次第2の第3回目策定委員会で出ました課題等々につきまして、それをどう整理したか等々につきまして事務局よりご提案をお願いいたします。

2. 第3回策定委員会を受けて 資料1

～事務局説明～

〈委員長〉

ありがとうございます。それでは今、8点にわたりまして整理していただいた内容についてご説明をしていただきました。この内容については次の計画案の説明の中でどういうふうに改善、付け加え等々してきたかというような説明があると思いますので、もしご質問等がありましたら、それを踏まえて質問等にも触れていきたいと思いますので、次第3の次期京丹後市教育振興計画の案につきまして、事務局より説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

3. 次期計画の素案について 資料2

～事務局説明～

〈委員長〉

ありがとうございました。ただいま、策定の趣旨から、プロジェクトの1から6まで全て説明をしていただきました。前回、一定詳しい説明をしていただいて議論をしていただいておりますので、修正を加えた部分を中心に、簡潔に概要的に報告、提案していただきました。

2つに分けて見ていきたいと思います。1つはプロジェクトに入るまで、ページで言いましたら計画策定の趣旨のページと、基本理念のページと、計画の体系のところについて

前半見ていき、あとプロジェクト1から6をまとめて見ていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、思い出しつつみたいところもあるかなとは思いますが、特に事前に資料も配っていただいていますので、見ていただいている方は見ていただいているかと思いますが、前半の部分の計画策定の趣旨から体系のところまで何かございましたらお出しください。

どうでしょうか。なかなか詳しい表現にまでは至っていないと思うのですが、キーワード的には入って、確認をしていただいているというような感じのところもあるかと思います。

よろしいですかね。では、詳しい中身の中で、関連付けてまた出てくるかなと思いますので、プロジェクト1から6一括してということになってしまいますけれども、行ったり来たりしても構いませんので気づき等々がありましたらお出しいただいて、共通理解が深められたらと思います。いかがでしょうか。

<委員>

プロジェクト2と3の関係で、2①安全・安心云々、ここには1段目1行目で「学校園所」という格好になっていますが、プロジェクト3の中では「保幼小中」となっています。これは何か意図があるのですか。これは別のものですか。意図があって呼び方を変えているのか、その辺はいかがですか。

<教育理事兼総括指導主事>

ありがとうございます。「学校園所」とさせてもらっているのは、それぞれの学校また園所というところそれぞれの場所でという意味で書かせてもらっております。

「保幼小中」という書き方にしておりますのは、一貫教育の一連の流れとしてということの意味したために「保幼小中」という言葉を使わせてもらっています。

ニュアンスが伝わりますかね。

<委員>

別のものだと考えたらよいのですか。別の組織というか団体だと。

<教育理事兼総括指導主事>

施策としては保幼小中一貫というような呼び方をしていると。それぞれ個々のこども園、小学校、中学校での教育というところでは、学校園所という言葉を使って表現しているということなので、全く別物ではないのですけれども。

<委員>

でも同じ部類ではないと。

〈教育長〉

市の施設名を括っているか、一貫教育という名称で括っているかの違いです。

〈委員長〉

よろしいでしょうか。ありがとうございました。ほかにございますか。

〈委員〉

前回から、とても分りやすくまとめていただいたなと思っています。文言の細かい整理や、文章も短くなって、とても分りやすいと思います。

プロジェクト 1①の「日々の教科指導の基盤となる考え方」の枠のところですが、これはもう触れないというか、絵みたいなのなんでしょうか。STEAM教育とはのところも、もうこれは絵みたいなのので文言が触れないのでしたらそれでいいんですが、この中で、前回言えばよかったのですが「理数系領域を融合し」というのが、私の中では理系と文系を融合して横断的な教育みたいなイメージだったので、あえて理数系領域を融合しているところに少し違和感があったのですが、これも絵みたいなのでもう触れないんですよということでしたら、それでいいと思います。

〈委員長〉

ありがとうございます。この件についてお願いします。

〈教育理事兼総括指導主事〉

ありがとうございます。下に出典も書かせていただいているのですが、昨年度しました人材育成の在り方検討会議の中の講師の先生が使われました資料をそのままを使わせていただいておりますので、文言修正をこちらではかけていないというところになります。

なので委員さんの意見で言うと絵のように取り上げさせていたっているというのが正しいというふうに考えていただけたらと思います。

〈委員〉

ありがとうございます。何でそんな細かいところにこだわっているのかと言うと、これが教科指導の基盤となる考え方というところに出てきているので、単に理数系領域を融合したという意味であるのか、理系と文系を融合して横断的にというようなイメージであるのかは、少し意味が違ってくるのかなと思ったので、感想で言わせていただきました。

〈委員長〉

ありがとうございました。ほかにありますか。

〈委員〉

前回の意見でウェルビーイングを取り入れていただいてありがたいんですが、さらに、

例えば各プロジェクトの中でこのウェルビーイングの向上につながるようなポイントがどのように盛り込まれているのか、その辺りの整合性をご説明いただけると、さらに分かりやすくありがたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

〈委員長〉

今の件についてよろしくお願いします。

今の趣旨の中に出てきている言葉が、プロジェクトの中でどういうふう to 具現化しようとしているかということですね。

〈委員〉

具体的に、教育を通してウェルビーイングっていうところがどのように反映されていくのかということです。

〈教育総務課長〉

趣旨のところにウェルビーイングということで入れさせていただいております。各プロジェクトの中には、直接ウェルビーイングという言葉は出てきていませんが、例えば包括的かつ多様性に富む教育環境の推進といったところですか、趣旨として理念として取り上げさせていただいているところですが、各プロジェクトの中で具体的にウェルビーイングの考えに基づいてこうしますといったことまでは、書き込んではいないところです。ただ、この考え方を大事にしながら、各プロジェクトの中でも、直接的には出ていないのですが、施策を進めていくといったことで考えているところでございます。

〈委員〉

ありがとうございます。プロジェクトの中にウェルビーイングという言葉が出てこなくても、そこにどうつながっているかということの意図が、明確に学校現場の皆さんがイメージできているかどうかというのが重要なと思ってまして、文科省が出しているこのウェルビーイングの資料とか見させてもらおうと、教育を通して得られるウェルビーイング生徒のウェルビーイングと、場のウェルビーイングみたいのがあったりして、それがどのようにここに反映されているかっていうことの意図、ねらいみたいなものが認識されていないと、言葉だけのウェルビーイングになってしまってもよくないなと思っていましたので、その整合性というものが何かの形で、示すのは難しいとしても、ここなんだっていうのがある程度分かるように、説明できるようにはしておいたほうがよいのかなと。そうじゃないと絵に描いた餅になってしまうので、またよろしくお願いします。

〈教育長〉

明確に、ここはウェルビーイングだということは分かりにくいのですが、例えばプロジェクト1①の第2段落にある「子ども同士の協働・探究を促進させます」「教員は一人一人の子どもの状況をしっかりと把握し、子どもたちがどう感じているかを評価の指標と一つ

とし」と、ここら辺りで「適切な助言・支援を行います」というふうに、今までの指導一辺倒ではなくて「支援」というところを入れているところが、教師側の立場からするウェルビーイングというところでのとらえだ。

それは分かりにくいと言われるとそこは検討するところですし、例えば、学びのところにおいては、プロジェクト 2② I C T最大限活用できる環境の再構築のところの「個別最適な学び」というところは、子どもにとっての個々に応じたよりよい学びというところにつながるので、こういう辺りを意図しているのですが、言われるように、趣旨のところの「一人一人のウェルビーイング」といった部分が明確になっているとは言えないので、可能などころで検討させていただきますが、文章が変わらないかも知れませんが、思いとしてはそういうところにあります。

<委員>

ありがとうございます。全然それでいいと思います。要は、現場で働く側が理解ができているかどうかがとても重要ななと思っています。

場合によっては分かりませんが、私は京都大学の内田先生の資料なんかを見させてもらっていますけど、そんな中のものを、このS T E A M教育とは？と注釈されているような形でポンと入れていって、学校現場の教育におけるウェルビーイングとはこういうふうに見せれますよみたいな感じの参考資料を入れておくのも、手としてはあるかなというふうには思います。

あと1点は希望的なところで、親世代の立場からとりあえず言ってみようかなということなのですが、私自身プロジェクト6のスポーツとか文化芸術に触れるという体験が、少しこのまちは弱いかなというところが実はありまして、ただ、実際に学力の経済学を書いておられる中室先生の科学的根拠で子育てという本の中に、スポーツをするということが1つ、将来の地位向上に大きくつながる。非認知能力とスポーツとリーダー体験ということなのですが、そういったところでいくと、この文化芸術も含め、スポーツに打ち込むということになると、どうしても私の知り合いとかでも福知山なら専門的に一生懸命頑張れるから行くとか、そんなような感じになってしまっていて、このまちではそこが希望できないというところがもどかしいなというのがありまして、もちろん民間でやればよいということはあるのですが、学校教育の中でもスポーツというところで推進されるのであれば、スポーツ振興、文化芸術振興みたいなところも、是非とも積極的に取り組んでいただけるとありがたいなと思っています。

これは、例えば部活動地域移行の中で説明していくことでも構わないかなと思いますが、そういうところで要望としては挙げておきたいと思います。

<委員長>

貴重な意見ありがとうございました。ほかにございますか。

理解を深め合えるような確認的な発言でも結構ですけども、よろしいでしょうか。

それでは、今のところないようですので、とりあえずいくつか今ご意見をいただいて、

深めさせていただいた部分も多々あったかなと思いますし、最後ウェルビーイングの表現の仕方、或いは注釈の付け方みたいなどの意見もあったかと思うので、これについてはまた事務局のほうに一任をさせていただいて、検討させていただいて付議等をしていただくかどうか判断していただくというようなことでよろしいでしょうか。

そのようなことで、出ました課題的なことについては、確認を取らせていただきます。

それでは、全体を通して漏れ落ち、言い残したいなものがありましたら、せっかくの機会ですので、よろしくお願いします。

<委員>

計画の位置付けのところに「京都府教育振興プラン第2期」とありますが、正式には「第2期京都府新教育振興プラン」という名称だと思いますので、また調べていただけたらと思います。

それから、プロジェクト2の「包括的」というのがどれを指しているのかが文章の中で分かりにくいなと思いました。「多様性に富む」についてはとても分かりやすく説明が書いてあるのですが、そこが2点目、少し引っかかりました。

それからそのプロジェクト2③子ども主体の教育を支える教職員の主体的・継続的な学びの実現の写真ですけども、学びの変革推進事業というのは、文章との整合性でいったらイメージ的に市や行政が教育を応援するという趣旨でこの事業はあったと思うので、ちょっと文章との関わりが変な感じがするかなというふうに、教職員の主体的・継続的な学びを推進するための事業だったのかなと思ったり、いやいや子どものための活用を促すような事業だったのかっていう辺り、少し整合性を確認していただけたらと思いました。

それから、細かいことですがいいですねプロジェクト5の網野銚子山古墳の管理・活用のところにある「総合的な学習の時間」というのは、全部統一して鍵括弧を付けられたほうが正式かなというふうに思いますので、もう1回検索かけていただいて「総合的な学習の時間」という名称については、鍵括弧がよいかなというふうに思いました。

それから最後、これも細かいことですがいいですねプロジェクト6の部活動の地域移行になっているので、「移」を抜いておいてもらったらと思います。

<教育総務課長>

「京都府教育振興プラン第2期」につきましては、パンフレットを見ながら書いたのですが正式には第2期が最初に来るようですので、そのように修正しておきたいと思います。

<教育理事兼総括指導主事>

ありがとうございます。「包括的」というところの説明は事務局としましても少し弱いなと思っていた部分ですので、少し預らせていただいて、もしくはもうその言葉を抜いてしまう可能性があるというところまでご理解いただけたらありがたいなと思います。

<委員長>

ありがとうございました。ほかにございますか。

ないようですので、全体を見渡していただいたというようなところで確認をさせていただいてもよろしいですか。

それでは、前回の会議を受けまして、かなり修正を加えていただいて、適格に表現等もしていただいたのではないかなというような雰囲気で見えていただいたのではないかなと思いますが、いくつか課題的なことも出していただきましたので、この会議を踏まえて事務局のほうで一括協議、確認的なことをしていただいて、修正等がありましたらもう事務局に一任するというところでよろしいですか。

そういうことで今日出ました内容、課題的なことについては、事務局のほうで判断をしていただいて、成案の原案化をしていただくというようなところに進んでいただきたいというように思います。

それでは、全体を通しまして、その他のところに入っていきたいと思いますが、今後の日程等も含めましてありましたら、事務局のほうからお願いします。

4. その他

〈教育総務課長〉

それでは、計画策定のほうお世話になりありがとうございます。

本日ご確認いただいた計画につきましては、この後、パブリックコメントでありますとか、議会への説明とか、総合教育会議でもご説明を申し上げながら、確定に向けて進めていきたいと思っております。

策定委員会につきましては、最終の策定委員会を予定しておりまして、第5回策定委員会でございます。今予定では、2月の5、6、7日辺りで日程調整をさせていただいて、最終の振興計画ということで、またご説明をさせていただきたいと考えているところでございます。

〈委員長〉

ありがとうございました。最後の委員会を2月5、6、7日の辺りで調整していただくということですので、ご予約のほうをお願いしたいというように思います。

最後の最後、全体通してありますか。

〈委員〉

この計画に携わらせていただいて、いろいろなことが分かってきて、地域の課題もそれから学校の課題も、私丹後町ですけど、丹後町の出生数は一昨年が11人で、去年は5人。丹後町で5人だと言われてちょっとショックを受けたのです。これでは教育が成り立たないなと。

スポーツでも何でも、人と関わることが一番大事なことで、それが地域の活性化にもつながる。教育の中でも、危惧することは、働き方改革で家庭訪問も難しくなった、不登校は多くなる。不登校については、地域の現状もですけど、家庭の実情を見て、子どもと関

わることも減ってくる中で、振興計画で、あと5年後に子どもたちがこれだけ減って、本当に考えていかななくてはならない。

京丹後のことを考えて、丹後町、弥栄町、網野町、久美浜町、一度出生率を皆さん見ていただいて、今後どうなるかということも含めて考えていかなければ、この丹後から子どもたちいなくなってしまうと思います。

先ほど委員が言ったスポーツについて、すごく大事です。自分の考えとして、なぜこのスポーツが丹後から福知山に。勝利至上主義に走っている。スポーツは子どもたちの心を豊かにする。つながっていく。そんな感じで丹後に帰ってきた子どもたちは多いです。やっぱり友だちがよかったから丹後に帰ってきた。丹後に住みやすいとか、働きやすいとか、よく言葉には出しているのですが、本当に子どもたちがよそに出て丹後が住みやすいと思っているかどうかも含めて本当に考えていかなければ、この次の振興計画のときに何をしゃべっていいか、本当に子どものことを考えていけるか。

不登校も本当に現実大変な状況なのです。各学校に行って、現場を見て、先生たちとどうしていかなければならないとか、いろいろなことを話していかなければ、この4年後5年後のこの会での話し合いは心配で本当に危惧します。

<委員長>

大変貴重な、根幹に関わる話を最後の最後に出していただいて、お互い勉強になったり、確認ができたのではないかなというように思います。

この会の大変なまとめをしていただいて、ありがとうございます。ほかにありますか。

<委員>

貴重な話を聞かせていただいてありがとうございます。

本当に些細なことなのですが、プロジェクト6のスポーツ観光のまちづくりで、「様々なスポーツやレクリエーション活動」と書いてある中で、目にする写真が妙にカヌーが多いので、サッカーとか、いろいろな町の得意とするスポーツを入れ込んでいただいたほうがよいと思います。何か妙に久美浜にフォーカスしているように思ってしまったので、何か入れてもらえたら嬉しいなと思いました。

<委員長>

ありがとうございます。また参考にしてください。

<委員>

最後言っておきたいと思うのは、今年市制20周年の記念式典に参加させてもらって少し違和感があったのは、市政20周年のお祝いをするのに子どもたちがいないっていう、なんかこう大人だけでまちをつくっているのかというところにすごく違和感があって、これからの時代はやっぱり子どもたちも含めて現役世代だと。もちろん子どもたちは学びの途中であるけれども、十分社会に貢献し得る重要な仲間たちだなというふうに位置付けて

いかなきゃいけないので、これまでの価値観の中でいくと大人と子どもが上下になっていたのが、フラットの関係性の中で、ともにこの街をつくっていく仲間なんだという、そういう意識を醸成していくのもすごく重要なんじゃないかなと。

こども基本法ができて、こどもまんなかという言葉があったり、そういう言葉だけじゃなくてそれを体現するようなまちをつくっていくかなければいけないと思っていますので、次にそういうまちの式典があれば、例えば各学校の生徒会の会長さんが参加して一言挨拶もらうとかでもいいと思いますし、そういうふうには上下ではなく横の関係性で子どもたちと関わっていけるような地域をつくっていくために、この教育振興計画が機能していけばすごくよいなと思っていますので、私もそれはそれで頑張りたいと思いますけれども、そういうふうになっていけたらという私の希望でございます。

<委員長>

ありがとうございました。それではもう終わらせていただいてもよろしいですか。

では、ないようですので、ご協議いただいてまだ不十分なところがあったかなと思いますけれども、一応の確認を得たということで終わらせていただきたいと思います。

それでは、閉会のご挨拶を副委員長からよろしくお願いいたします。

5. 閉会あいさつ

<副委員長>

失礼します。前回に引き続きいろいろ協議いただいてありがとうございます。

本当に年末の忙しい時期にお集まりいただいて、もういつも冬型で、うらにしで、晴れたかと思っても雨が降るそんな日々が今年は何か多いなと思っています。

先ほどありましたように、丹後町の出生数が5人とか11人。弥栄町は去年17人。今年、今の時点で10月までに生まれた子どもが9人なんです。合わせても1クラスできないなんて思って今聞いていたところです。

この5年の計画がこれから先よりよい形になって、にぎやかな京丹後市になるように、皆さんで頑張れたらよいなと思いました。

明日は皆さんが待ちに待った、待っていない人もいるかも知れませんが、クリスマスが来ます。今日は、待っている人も待っていない人もクリスマスイブですね。今日は帰って楽しい夜をお過ごしください。

ありがとうございました。お疲れ様でした。

<委員長>

ありがとうございました。事務局にお返しします。

<教育総務課長>

長時間にわたり、回数もたくさん、協議お世話になりありがとうございました。

お帰りの際は、気を付けてお帰りいただきますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。